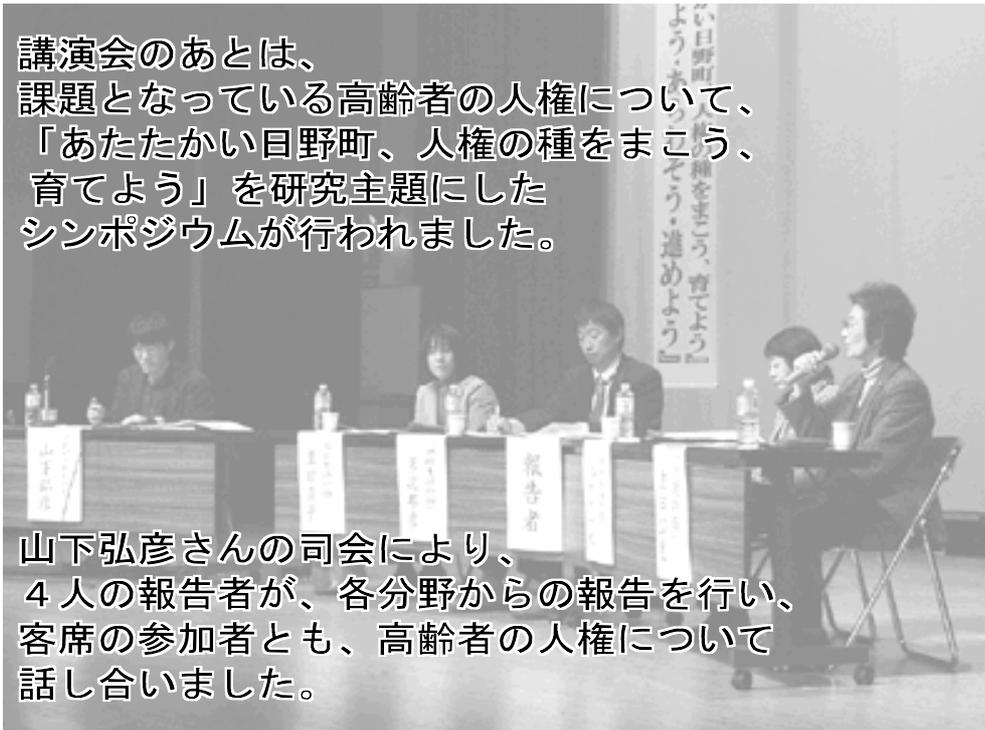


地域で高齢者を支える 仕組みづくりを

第33回日野町人権・同和教育研究集会（シンポジウム）



講演会のあとは、
課題となっている高齢者の人権について、
「あたたかい日野町、人権の種をまこう、
育てよう」を研究主題にした
シンポジウムが行われました。

山下弘彦さんの司会により、
4人の報告者が、各分野からの報告を行い、
客席の参加者とも、高齢者の人権について
話し合いました。

高齢者を取り巻く状況を報告

山下 日野町の65歳以上の人口は約39%ときわめて高い。
高齢者のための国連原則は「自立・参加・ケア・自己実現・
尊厳」を実現させるためにはどうすればいいのか。4人の皆さ
んから、各分野の現状・課題を報告いただきたいと思えます。

地域生活の面から

末次 黒坂小学校では、主に
訪問活動と、地域の皆さんと
のふれあい活動を行っています。
5・6年生を中心に町内
の施設へ訪問しています。初
めは不安がっていました。こ
も、実際に行ってみると温か
く迎えていただいたり、歌や
笛の演奏に拍手をいただき、
意欲が高まっています。
地域の人たちとのふれあい

活動では、生け花や、昔の遊
びなどを教えてもらい、高齢
者を尊敬し、癒されているよ
うです。こうした活動が、日
常的な高齢者とのつながりに
なればと思っています。

家庭生活の面から

生田直子 家庭生活の面から、
認知症について考えてみま
した。
町内の介護認定者のうち、

報告者

末次 邦彦さん
(黒坂小学校教諭)



コーディネーター
山下 弘彦さん
(日野ボランティア・
ネットワーク事務局)

認知症にかかっている人は1
67人で、約6割。認知症は、
高齢期にはありふれた病気で、
恥ずかしいことも、みっとも
ないこともないので、早めに
医師に相談してください。
認知症にかかっても、適切
なケアや工夫で、生活の不自
由や介護者の負担を軽くした
りすることができます。

認知症が進んでも、心は豊
かに生きており、その人の尊
厳を支える介護が大切です。
また、誤ったり間違ったり
する認知症患者を理詰めで説
得してもうまくいきません。
説得よりも、穏やかな対応を
優先してみましょう。こうし
たかわりが家庭からご近所
へ広がっていければ良いと思
います。

地域生活の面から

谷口 下棟の高齢者について
お話しします。下棟の高齡化
率は約31%。私が集落を回る
ときに心がけているのは、あ

いさつと声かけ。皆さんから聞く言葉は、「施設や病院はお金がかかり入りにくい」「家族に迷惑がかかる」というもので心が痛みます。
今年度、榎の美老人会が再設立され、生きいきと楽しい人生を送ることを願い、月に一度、子どもたちとの交流などを行っていきます。

介護の面から
生田公恵 老いは誰でも通る道と思ひ、日野郡内の老人保健施設などを見学してみました。

現場で介護しておられる人は、介護される人への禁句集や、施設の教訓10か条を守ったり、入室するときはノックをするなど、人権を第一に考えて取り組んでいるそうです。できれば自宅に帰れるようにしてあげたい」という介護士さんの本音も聞くことができました。
また、「野菜などを持って



報告者
生田 直子さん
(日野町地域包括支援センター)



報告者
生田 公恵さん
(日野町男女共同参画推進会議)

きていただけると助かります」とも。地元のボランティアや近所の人たちで少しでも手伝えればと思ひました。
施設の皆さんには、地域にもっと開放したい、もっと地域の人に来てほしいとの、前向きな施設運営を感じました。
山下 皆さんの話をまとめると、地域の高齢化が進んで、高齢者を支えていくことが難しくなっている。そんな中、子どもたちや地域の人たちが高齢者と交流し、かわっていくことが大切だということですね。

会場の参加者から
山下 今度は、会場の皆さんから、地域の高齢者の人権課題についてお話を聞かせていただければと思ひますが。

参加者 私に住んでいる自治会の高齢化率は、約6割。独居世帯も12あります。ぼかぼか教室や、病院の健康教室を開いても、集まるのは男性だけ。これからは、女性にも集まってもらえる機会を作ろうと、町社会福祉協議会が進めている「ふれあいサロン」に取り組む予定です。

参加者 ふれあいサロンには3つの目標があり、それは、地域に元気になってもらいたい、高齢者を一人にさせない、災害時に犠牲者を出さない、というものです。

田舎でも近所とのふれあいが少なくなっている中、人権問題も支え合い・助け合いが

大切。そんな地域になってほしいです。

参加者 介護保険の導入によって、むしろ地域での連携や支え合いが薄れているように感じます。

そんな中、日野郡内の一般事業者の中で、地域の高齢者に異状があれば行政に通報する取り組みが出てきています。このように、専門家だけでなく、地域全体で取り組む仕掛け作りが必要だと感じます。

参加者 春に日野町に転勤してきて感じたことは、子どもからお年寄りまで多くの人々が笑顔であいさつしてくれること。「ばんになりました」と、なじみやすくあいさつできることがうれしいです。

高齢化率を下げるには、若者を増やさなければいけません。日野町は、地域の魅力がうまく生かされていないように感じます。



報告者
谷口カナ枝さん
(日野町生活相談員)

まとめ

山下 今日の話の中で、勇気が出てくることがあったのではと思います。認知症になるのは恥ずかしいことでしょうか。これだけの高齢化率になれば、いずれ認知症になるのは当たり前かもしれません。ふだんから、「もし私がおかしな事を言い始めても、それも私だからよろしくね」など、少しでも言えるようにならないでしょうか。地域の課題を見過ごさないで、みんなで話し合っ、必要なことがあれば声を上げていくことが大事なのではと感じました。これを小地域座談会や自治会の場での話し合いにつなげていただければ、今日のこの時間が有意義になっていくと思ひます。